



第8回九組会の再生計画案 (12月15日 人吉新聞)



第8回九組会意見交換会 (12月7日)



新アイスマ本店開店3日目

が薄れます。各回の再生会議も時間と予定内容が優先され、議論すべきテーマが事前に示されないために議論が深まらないことも気になりました。人吉市復興支援課のまちづくりの計画期間は令和3年度～9年度の7年間としてありますので、何とも

言えませんが…。それでも、まちのイメージを決める初期の構想が一番大事だと感じます。そういう中、今日12月10日は会場横の九日町のスーパー「イスマ」本店のプレオープン、さらに明日はグラウンドオープンとのこと。いよいよ、何

とか、まち中が動き始めたという感じがします。水俣の吉本哲郎氏「地元学をはじめよう」(岩波ジュニア新書)のように、先ず地元の人々が自分の眼で被災1年半後の今の人吉のまちなかの



いつ大水が来るか・神のみぞ知る

むを得ないことですが、イメージ図はこれまでの再生会議で出た意見を複雑に?図上に表したという感じですが、また説明の中に少しでも新しい視点があればと聞いていたのですが、同じような説明の繰り返しで、特に新たな展開はありませんでした。たたき台「イメージ図

次の意見交換会でも発言するのは同じ人、その内容も変わらず特に新鮮さはないようでした。進行役が特に発言のない方に意見を出すよう促せば、もつと違う考えが聴けたかと思えます。関係者に「この会はガス抜きだから」などと言われる様では、何だか参加した意義や発言のねらい

まず12月7日、第8回の九組会に出席した感想です。今回は時間を間違え少し遅れての参加でしたが、入

室すると参加者全体の雰囲気もモアーとしていて、中心市街地復興再生計画(たたき台)の説明にも参加の皆さんの関心度、前向きさが少ないと感じました。また確定している事項がないせいもあり会の経過上止むを得ないことですが、イメージ図

の説明前に「本日はこれがメインテーマです。今日はこのことに方向性を出したい」等を提示されたら、8回目の会議で議論すべきテーマがぼけなかったのではと感じました。これまでのまとめとその了承だけでは少しさみしいようです。それでも「たたき台」とは言い、過去7回の数多くの市民の意見とを考えをここまで整理された関係者のご努力に感謝申し上げます。

セメントから木へ、木から人へ

「今やるべき、人吉中心市街地まちづくりへの提案」

人吉市民 松本晋一(人吉市五日町)

第8回九日町・紺屋町 再生会議に参加して



川辺川へ国内最大の流水治水ダムを計画 (12月8日 人吉新聞)

情を知ること。すでに被災地の真ん中で仕事をしている人、今、商売を始めた人、そこに住んでいる方々、まだ次の仕事や生き方について不安な方を含め、現時点での「まちづくりへの今の率直な願い」を知って、この令和4年のまちづくりへの希望や方向性を再確認したらいかがでしょうか？

以下は昨年秋に私がいくつか本誌で提案した「人吉の魅力づくり、人吉らしきづくり」をさらに敷衍したものです。

○被災から1年半、「このまちで生きる」ための課題点とは？

- ・またすぐに水害再来の懸念あり！ 人吉のまちと球磨川との共存をどうするか？
- 水害の再来があっても、それでもこの人吉に暮らすのならば？

○被災から1年半、「このまちで生きる」ための課題点とは？

- ・またすぐに水害再来の懸念あり！ 人吉のまちと球磨川との共存をどうするか？

そこに人が居ること、この町に人が居ること、人が来るようにすること、そのためには…

今、この人吉は元気になって来ています！の具体例をしつかり発信…

(1)人吉観光の売り・球磨川下りが出来ますよ！↓そのためには春まで

に川堀りする

2 青井神社も元気になってきましたよ！↓見せ場を作る

(3)観光客の受け皿が出てきますよ！
↓発船場のリニューアル、旅館、ホテル、各店舗の再開の発信

(4)人吉の昔のよか所が、ダイジョウブに残っていますよ！

人吉の宝は…自然の良さ、歴史の良さ、人の良さ、産業の良さ、これらを発信

(5)新しくこれから人吉のよか所を創りますよ！

被災中心地に皆が交流する場、情報発信センター機能を持つ中核施設が出来ますよ。

(6)人吉には今、これとこれがありまますよ！ 街中をじゅぐりつとバスが運行中！

人は何を求めているか↓人がそこ

に動く目的は何か⇨被災前と今との違いは？

例) 仕事、観光、食事、遊び、研究、学習、休む、泊まる、憩い、ゴルフ、心の癒し

(7)より新しい楽しいまちが出来ますよ！⇨「ひと、まち、みどり」のまちづくり

街の通りに花と緑と水、川べりの活用、食べ物店、お店、トイレ、駅を花と緑の町に

(8)もうすぐ、くま川鉄道と肥薩線山線が開通しますよ！ それまでは代替便もありますよ！

駅前に鉄道オタク大集合！ 鉄ちゃんは無敵のこと、MOZOK A周辺により人が集まって来れば、肥薩線、くま川鉄道がより早く復旧、鉄道ファンと市民がつながる

(9)被災より1年半、これまでとこれからの人吉の変化と活動の様子、市民の思いをパンフレットや冊子、さらには映像化して具体的に記録発信、紹介する

以下は私の個人的観点でのまちづくり提案です。

1、先ずリーダーが、この町の将来像はこうあるべきとのイメージ図を、きちんと言葉で人吉市民、県民へ提示して欲しいのです。それらがこの人吉と流域にふさわしければ、それらは理解され、町、村づくりの元（人吉球磨らしき）となるでしょう。

2、球磨川の水害は歴史的にも毎度のことです

人吉の魅力づくり「人吉らしき」の提案⇨「セメントから木へ、木から人へ」

人も家も道路も鉄道も、地元の人先人・住人・仕事人の先見性はそれ（大水）を覚悟で行動し、球磨川と共にこの土地に生きています。穴あきダムに惑わされ、人は動かさず、では何も始まりません。これは時間のムダ



紺屋町西村酒店・淵田酒造の建物（裏側）



球磨川下り遊覧船（木山の洲）

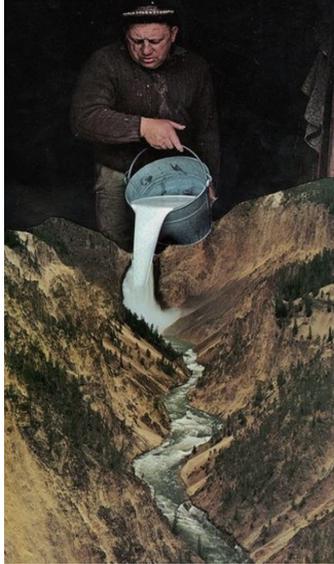
金と時間を皆が待ち望む鉄道路線の復旧に使いたまおう
6、平時と災害時の空路、鉄路、陸路の3路線の整備がポイント↓
ダム^①のセメントで日野熊蔵空港づくりを！
あくまでも個人的な願いですが、人吉盆地は台風や水害で

数年おきに陸の孤島となります！でもここ人吉は日本最初のパイロット日野熊蔵・生誕の地です。今回の被災を機に遊休地ほか、ダム^①のセメントで然るべき場所に人吉エアポート（日野熊蔵空港）を造りましょう。天然草エアラインを始めとして各航

まとめ・被災して1年6カ月
↓今・先ずやるべきことは！

(1)復旧・再生の具体的な整備内容とそのタイムスケジュールを示して欲しいです。

中心市街地の復興まちづくり計画イメージのさらなる具体化とタイムスケジュールを早く発信して市民、流域住民の賛同を得る。↓まちづくりの具体的計画とスケジュールを県政、中央政府、マスコミにも知らせる。↓そうすることで、全国の皆様とつ



球磨川の大水は毎度のことです

5、肥薩線、くま川鉄道を早期に修復・運用することが大事です。
山づくり、里づくり、まちづくりへと廻すべきです。木を大切にしましょう。
4、木から人へ↓同じく穴あきダムへのお金と時間をこの地の自然資源と人材育成・教育へ廻しましょう。人吉の町と球磨川流域に大切なのは球磨川の自然、人吉球磨の歴史、地元の偉人、この地の産業と教育（人材）です。この5つが「人吉らしさ」をつくります。この自然と文化資源をさらに活かせば人が来ます。自然教育、歴史教育、人間教育の場「くまがわ大学」を創りましょう。この地の復興の様子は全国の皆が注目しています。

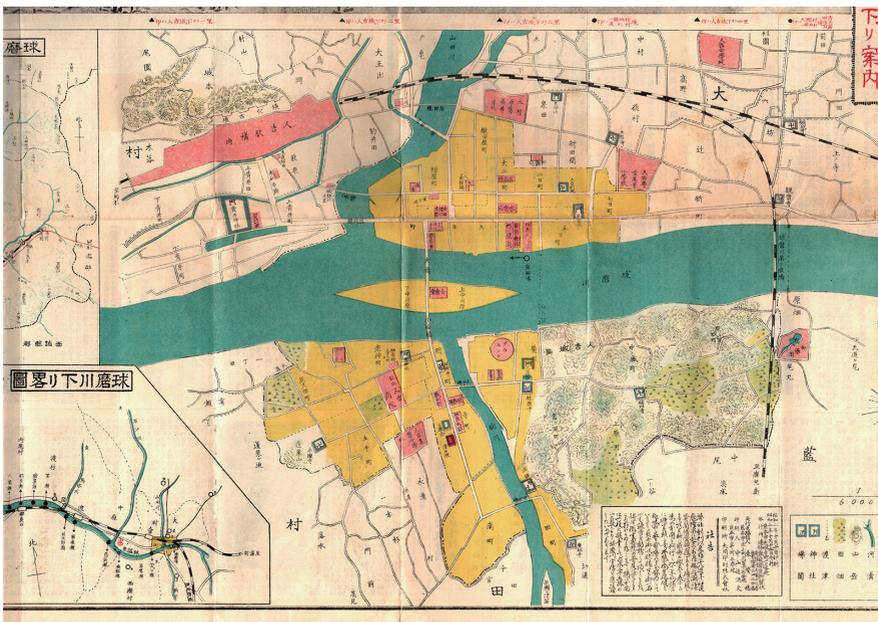
11月28日、くま川鉄道の部分運行が開始されました。これで肥薩線の復旧が盛り上がります。先ず肥薩線の山線を入吉まで通す↓さらに鉄道の全線開通でCO2削減にも貢献します。これも同じく穴あきダムへのお

です。まちづくりでやるべきことをすぐに行動しましょう。
3、セメントから木へ！↓穴あきダムに費やすお金と時間を、球磨川流域の林業と家づくり、まちづくり^①に廻しましょう。
川辺川ダム検討の前に行政のやるべきことは、これまであまり熱心にやってこなかった山林や林業の整備、すなわち山づくりです。国内最大のダムづくり^①に使うお金と時間を、先ず地域の

山づくり、里づくり、まちづくりへと廻すべきです。木を大切にしましょう。
4、木から人へ↓同じく穴あきダムへのお金と時間をこの地の自然資源と人材育成・教育へ廻しましょう。人吉の町と球磨川流域に大切なのは球磨川の自然、人吉球磨の歴史、地元の偉人、この地の産業と教育（人材）です。この5つが「人吉らしさ」をつくります。この自然と文化資源をさらに活かせば人が来ます。自然教育、歴史教育、人間教育の場「くまがわ大学」を創りましょう。この地の復興の様子は全国の皆が注目しています。



1年5カ月ぶりにくま鉄部分開通（11月29日熊日新聞）



現存する懐かしい古い町並み、ゆかりの場所を残しましょう。昭和2年人吉町全図（95年前）

- ながり、安心があり、支援もあ
- る。
- (2)被災の中心地周辺に、記念樹や花を植えたらどうでしょう
- 今回の被災と過去の被災を象徴する場所（被災市街地復興推進地域）にモニュメントや記念樹、花を植える。復興のサインを花と木で演出する。
- (3)観光の売りの回復を発信する
- この春の3月末までに球磨川下り、ラフティング、釣り、水泳漁が出来るよう、復興まちづくりのトップに球磨川の川堀りを優先し、水遊び、球磨川下りなど、球磨川と共生可能な観光資源をまず整備して、そのことを発信して欲しいです。
- (4)川の駅をつくりましょう
- カヌーやボート、船遊び、水泳

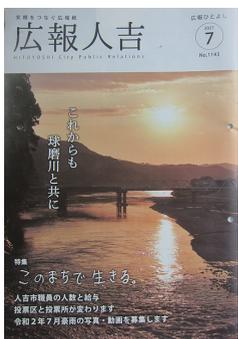
- 釣り、モーターカーキャンプ場など川あそびの基地
- 「川の駅くまがわ」を球磨川、川辺川の上流中流（中川原や山田川、万江川）、下流（那良口、白石、坂本）など各所につくりましょう。
- (5)懐かしい建物、ゆかりの場所を残しましょう
- 今、町の中心街全体が取り壊し中です、その中で失われていくものは何かを探り、まだ残せる大切なもの（身近にある資源）を確認し、記録してそれを残しましょう。昔の道、古い町並み、古い建物を残した上で、それらを新しい人吉のまちのランドマークに。旧きもの、良きものを再生し使うことでまちが楽しくなります。人吉駅や機関庫もしっかり残っています。

- (6)街中（紺屋町、大工町、鍛冶屋町、二日町）には、可能ならば駐車場を周辺に配置しクルマを少し遠ざけて、町歩きが楽しめる区域をつくりましょう。
- (7)やる気も出て、見違えるような、災害に負けない、復興の象徴となるものを創りましょう。
- まちなかに県市民観光客らの憩いの場、人吉球磨文化の情報発信センター（偉人館、新図書館他）を地元材の純木造で創りましょう。場所は九日町紺屋町大工町周辺ではいかがでしょうか。
- 私たちの時代はこの球磨川の水と緑の恩恵を沢山頂きました。私たちはこの幸せを次世代に、孫たちに伝えることをが、新しいまちづくりにもつながると思います。

人吉は人の好き、人良しから。まちづくりは人づくり、皆で「ひとよし」を発信しましょう！

関連資料

- ・トップのバケツ大水の写真はネット資料より
- ・「復興まちづくりに関わる提案書」 九日町・紺屋町再生会議 令和3年10月
- ・「人吉市復興まちづくり計画」 中心市街地地区概要版 人吉市 令和3年10月
- ・「人吉の魅力をつくる2つの提案」 くまがわ春秋 第66号 2021年9月号 30〜39頁
- ・「人吉をどんな町にしたいですか？」 くまがわ春秋 第67巻 2021年10月号 34〜42頁



「これからも、このまちで生きる」